



山形いのちの電話

広報70号

2024.11.25

yamagata



山形いのちの電話開局30周年によせて



山形いのちの電話は、本年10月1日に開局30周年という記念すべき日を迎える事が出来ました。これも偏に、設立にご尽力頂いた諸先輩の皆様、運営にご奮闘頂いた歴代理事長

を初めとする役員・事務局員の皆さん、尊い使命感に燃え無償で相談活動を続けて頂いた相談員の皆さん、いのちの電話の活動を理解し支援して頂いた多くの皆様のご理解とご支援の賜であり、改めて深く感謝申し上げます。

いのちの電話は、市民運動として今から71年前の1953年にイギリスで始まりました。以来この運動は急速に世界中に広まり、今では世界70数か国に1,000以上の電話センターを有する大きな組織に発展し、世界中の多くのボランティアが意義ある活動を続けております。

日本では、イギリスに遅れる事18年の1971年に東京で始まり、現在では多くの都道府県にまたがり50のセンターが開局しております。

山形いのちの電話は、東京開局の23年後の1994年に開局しましたが、その時の相談員は68名、東北では仙台・盛岡に続いて3番目の開局でありました。

山形いのちの電話の設立を振り返りますと、「山形にいのちの電話を！」と言い出されたのは、当時山形大学教養学部生物学教室教授だった故石塚和雄さんでした。そしてそれに賛同された一期生相談員で現理事の境澤栄美子さん達が、1990年に

山形いのちの電話 理事長 長谷川 憲 治

準備委員会を発足され活動が始まりました。多くの支援が必要な為、本間利雄設計事務所の故本間利雄さんに会の趣旨をお話し申し上げた処共鳴され賛同を募って寄付を集めて頂き、又当時山形県芸術文化協会会長をしておられた故田中哲氏が理事長をお引き受け下さり、4年後の1994年の開局へ至った訳であります。

以来30年、今では庄内分室も有し、相談員数95名（全国の相談員数の約1.6%）、年間受信件数7,903件（全国の受信件数の約1.5%）の実績を残せるまでになり、累計受信件数も昨年20万件を超える事が出来ました。又「愛の鳩賞」や「山新3P賞『平和賞』」を受賞する等高い評価も頂けるようになりました。それも偏に関係皆様の高い使命感・ご努力・ご理解・ご支援の賜であります。本当に有難うございました。

30周年を迎え私達関係者一同は、これを単なるセレモニー・イベントに終わらせず、改めてこれ迄の歴史を振り返り、今後のあるべき姿を模索する有意義な機会としたいと考えております。又、複雑化する社会状況等で悩んでおられる方は、残念ながら減少してはおりません。山形いのちの電話は、これからも「悩んでおられる方々に、少しでも寄り添い、お役に立てれば」との想いと、来るべき40周年、50周年に向けて更なる意義ある活動を続けて参りたいと考えておりますので、変わらぬご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。



祝 辞

山形県知事 吉 村 美栄子

山形いのちの電話開局30周年、誠におめでとうございます。

山形いのちの電話におかれましては、平成6年の開局以来、本県における電話相談窓口の中心として、悩みを抱えておられる方々に温かい手を差し伸べていただきましたことに、心から敬意を表しますとともに、深く感謝を申し上げます。

さて、今般、厚生労働省より発表されました人口動態統計(概数)によりますと、県内の令和5年の自殺者数は156人と、過去30年で最も少ない人数となりました。また、人口10万人あたりの自殺者数(自殺死亡率)は、令和3年までは全国よりも高い水準が続いておりましたが、令和5年は全国平均を下回っております。このことは、山形いのちの電話の運営に携わっておられる理事長

はじめ役員、相談員、及び関係者の皆様の御尽力の賜物であり、日頃の御苦勞に対し改めて感謝を申し上げます。

現代社会において、自殺に追い込まれる背景には、経済的な理由や健康面での不安のほか、SNSの発達などによる人間関係の変化など、多様で複雑な問題があります。こうした中、県としましては、令和5年3月に、「いのち支える山形県自殺対策計画(第2期)」を策定し、「心のサポーター」養成等の自殺対策を支える人材の育成、児童生徒に関わる機関が連携して取り組む「SOSの出し方・受け止め方教育」の推進等、様々な施策を講じているところです。

山形いのちの電話の運営に携わっておられる皆様におかれましては、今後とも、本県の自殺対策はもとより、地域福祉の一翼として、困難な状況にあり自ら命を絶とうとしている人が一人でも救われますよう、より一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、山形いのちの電話の益々の御活躍と関係者の皆様の御健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

山形市長 佐 藤 孝 弘

山形いのちの電話が、開局30周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

社会福祉法人山形いのちの電話におかれましては、平成6年の開局以来、30年もの長きにわたり、県内の電話相談窓口の中心として、悩みや苦しみを抱える方々からの相談に真摯に向き合ってこられました。こうした取組は、山形市はもとより山形県の自殺予防の推進に大きく寄与され、長谷川理事長をはじめ歴代の理事長、役員の皆様、そして多くの相談員ボランティアの皆様のご長年に渡るご尽力に、深甚なる敬意と感謝の意を表します。

昨今は、高齢化の進展や新型コロナウイルス感染症の影響等から、孤独・孤立の問題がより一層深刻化して

きております。こうしたことから、一人で悩みや不安を抱える方々の希望をつなぐ貴法人の活動は、これまで以上に重要性が増してきております。

山形市における自殺死亡者数は、2018年以降横ばいではありますが、それでも年間30人以上の尊い命が失われています。このような中、「こころ通わせ いのち支える 想いやりのまち山形市」の実現を目指し、今年3月に「いのち支える山形市自殺対策計画(第2期)」を策定いたしました。また、7月からは、全国の自治体に先駆けて、孤独・孤立の悩みを抱える方の相談を24時間対応可能とする傾聴型生成AIを活用し、デジタルソーシャルワーカーとのハイブリッド型チャット相談である「つながりよりそいチャット」を実施しているほか、今後とも関係団体等との連携を図りながら、自殺予防に向けた啓発や相談支援の充実、自殺対策を支える人材の育成などに取り組んでまいりますので、なお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴法人の益々のご発展と、活動に携わる皆様のご健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



開局30周年を祝して！

一般社団法人日本いのちの電話連盟
理事長 堀 井 茂 男

山形いのちの電話は、1994(平成6)年10月1日午後3時に、全国38番目のいのちの電話として山形市にて開局して30年、この間、社会福祉法人として、15年後に庄内分室ができ、毎日午後1～10時、100名(2024年4月)のボランティアの皆様が電話相談を担当して下さり、毎月10日自殺予防フリーダイヤル(毎月FD)もとって下さっています。この30年間のご苦勞は計り知れないものがあることでしょう。日々の電話相談、自殺予防活動にご尽力されているボランティアの皆様、関係者に篤くお礼を申し上げますとともに労をねぎらいたと思います。ありがとうございます。

日本いのちの電話連盟では、2007年よりの毎月FD

を始め、2011年の東日本大震災の際の震災ダイヤル設置、2020年からのコロナウイルスパンデミックの事態では同年6月より午後4～9時の毎日フリーダイヤルを開始(現在も継続中)、本年1月の能登半島地震でも「予約制ダイヤル」を実施しています。また、今年の新しい試みとして、9月10日の自殺予防デーから7日間、朝8時からの24時間フリーダイヤル相談トライアルを試行しました。その結果、約7,000件の相談を受けることが出来ました。1日1,000件の相談が出来たわけで素晴らしい成果でした。

山形いのちの電話は、昨年7,903件の相談電話(全国は約56万件)を受けて下さり、本年30周年を迎えられました。この30年を支えて来られた皆様に深く感謝いたします。私たちの相談活動は、地道な縁の下の力持ち的な目立たない活動ですが、孤独な人たちの隣人として何時でも何でも相談できる電話として、全国50センターの皆様と共に、これからもよろしく願いいたします。



常務理事
事務局長 永澤 孝

山形いのちの電話開局30周年に立ち合わせていただき感慨無量です。

20周年記念式典の時は、法人の評議員の立場だったこともあり、パーティの楽しい記憶だけが残っています。その後まもなく、山形いのちの電話からは離れていたのですが、2019年に偶然のような縁で、団体の事務局運営にお誘いを受け、常務理事兼事務局長をお引き受けしました。評議員の経歴を持っていたと言っても形だけの参加でしたので、電話相談活動の実態をほとんど知らない者には、適任であったはずがありません。

大きな功績を残された歴代の事務局長さんのことを思うと（今でもですが）、冷や汗が出ます。事務局長経験のある先輩に「私では責任を果たせない」、当座のワンポイントリリーフは承知したが、後々のことはよろし

くお願いしますよと話したことがありました。そのときその先輩は「堂々としていればいいの。相談員のリーダー格がいっぱいいる。事務局員はなんでも分かっているから大丈夫」と励ましてくれました。その先輩の激励は真に的を射ていたと、日々、思っ過ぎてきたのですか、私の在任中に「30周年記念事業」が巡ってきたことは想定外でした。

しかし、この一大事業も、長谷川理事長、井上後援会長のもとに、1年以上も前から理事や評議員等から少数精鋭の実行委員会が組織され、20回ほどの会議とさらに並行して打ち合わせ会が開かれ、その開催のたびに記念事業の企画が実現に向けて展開されました。

また、実際のイベント等開催にあたっては、多くの相談員仲間まで協力参加してくれました。皆様には、一生懸命に取り組んでいただきましたが、素人の怖いもの知らずのような場面もあるかと思います。それもこれも「山形いのちの電話」みんなで手がけたことなのだと思われたい。

最後に誠に厚かましい感想ですが、この折りに事務局長として携われたことを心から感謝申し上げます。



第三者委員
元事務局長 島貫 新平

イエス・キリストの言葉に、「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があるのか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価が支払えようか。」とあります。人の命の尊さ、命の重さについて、教えられました。

また、彼は、山上の説教の中で、「見てもらおうとして、人の前で善行をしないように注意なさい。」「右の手のすることを左の手に知らせてはならない。」とも、教えられました。報いを求めることなく、他者に仕えるということなのです。

いのちの電話を通して、社会の片隅で、人生に悩み苦しむ人たちのために、耳を傾けている相談員の皆様に、心から敬意を表します。相談員になるための受講料も全額自己負担、認定されてからも、無償、匿名で奉仕する、小さい者たちの声に耳を傾ける真のボランティア活動です。

某国の首相が、「わたしは聴くことが得意です」と壮語しましたが、聴くのは大金持や権力者の声のみ、貧しい人、苦しむ人たちの声は、殆ど聞こえていないようです。

「いのちの電話」が始まった頃のボランティア活動というのは、無償であることは当然でした。しかし、今では、社会的状況が変わり、仕事を持つ人、忙しい人が多くなり、無償で奉仕をする人を求めることが相当に困難になっているようです。このような時代になっても、純粋なボランティア活動として、存亡の危機に直面したこともありましたが、30年も途絶えることなく、継続できたことは、実に不思議なことであり、関係者の皆さんに感謝、敬意を表します。



評議員
元事務局長 伊藤 和子

私が山形いのちの電話に出会ったのは1993年のことです。翌年の開局に向けての相談員養成講座を受講し、95年に仲間と共に認定を受けました（第1期生68名）。当初、相談時間は15時～21時、年中無休で行っていました。相談員は勿論、事務局、先生方も初めての体験の連続で、皆で戸惑いながら電話を受けていたことを思い出します。

4年後、私は事務局スタッフとなり、2001年からは初代事務局長石塚和雄氏、境澤栄美子氏の後、事務局長を6年間務めさせて頂きました。丁度この年からフリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」が始まりました。1998年から毎年自殺者が3万人を超えるという状況が続いており、厚生労働省補助事業として12月1日～7日まで実施されました。山形センターの相談時間は13時～22時でしたが、この1週間は相談員全員、そして先生方にも協力を頂き24時間対応を行いました。それに向けての事前研修も何度も行いました。「電話相談という限界の中で私達は何が出来るのだろうか」ということを皆で考え「相談者に精一杯向き合おう」と覚悟を決める研修でもありました。

いのちの電話の色々なことに関わらせて頂いた30年ですが、多くの方々のご協力無しには継続出来ない活動であることをしみじみと感じます。この場をお借りして、皆様に感謝申し上げます。「一人一人を大切に話を聴かせて頂く」シンプルで奥深い活動が、これからも皆様のお力を頂きながら続いていくことを願っております。



後援会活動



開局30周年を迎えて
利他の心を具現する場
「いのちの電話」
後援会会長
評議員 井上 弓子

山形いのちの電話開局30周年誠におめでとうございます。開局以来ご努力頂いた相談員の皆様、支援して頂いた後援会の個人・団体の維持会員・賛助会員の皆様、そして社会福祉法人「いのちの電話」を運営して来られたスタッフの皆様に心からの感謝と敬意を表したいと思います。

私は母の後を引き継ぐ形で評議員を拝命して十数年になりますが、何と言ってもボランティアとして無償の奉仕で電話を取る相談員の皆様の姿にただただ感銘し続

けております。自費で研修を受け、認定後相談活動に携わるようになった後も定期的に勉強会に参加して、孤独や不安を抱えた人々に寄り添うという努力をなさっている相談員の皆様を思う時、自分に出来ることは支える側に立つこと以外にはないと考えております。

この30年の間には不況や東日本大震災そしてコロナ禍等様々な社会状況がありました。このような社会状況に翻弄され孤独に陥り不安を抱えた人々がどれだけいたことでしょうか。又思いがけず病気になるたり高齢になり不安を抱えた人々がどれだけいたことでしょうか。

これからも誰にどんなことが起こるかわかりません。これからも市民活動として「いのちの電話」の活動は必要とされることでしょうか。どうぞ皆様、これからも利他の心で市民が市民を支える活動「山形いのちの電話」にご支援をお願い致します。

これまでの後援会活動

チャリティーコンサートから



後援会総会・記念講演から



初代後援会会長
故 本 間 利 雄

弱い糸と強い糸がうまく組み合わせられれば美しく強くなる。経済と文化とよく云われる。経済といのち、人生の豊かさとも考えられる。建築も強く美しく。

さて、私がいちのちの電話に関わるようになって20年。20年前、東北の自殺者は多かった。秋田、岩手、山形と、我が山形県は自殺者が全国の3番目。それも東北が1、2、3を占めていた。何故とおどろいたことを思い

起こす。いのちの電話の運動が山形に根付き20年を迎える。ご支援いただいた多くの方々に心から感謝申し上げます。

自殺したいという人と向き合う自殺予防運動が「山形いのちの電話」である。いくら都市が発展しても、みんな幸せでなければそれは虚しい。

今どうやって生きていますか、何を目標に生きていますか、と問いかけ、私共が経済最優先社会に生き続けていることで失っていることは無いのか自問し、明日への明るい希望をもって生きることのできる東北・山形をめざしたい。（設立20周年記念誌より抜粋しました）

研修活動



時代・地域・人と つながること

研修委員長
理事 末 廣 晃 二

あれから30年が過ぎました。当時、私は地元の大学で、在籍学生の大学生活を支援するカウンセラーを専業としていました。私と「いのちの電話」とのつながりは、大学の学生部長を兼任されていた元理学部の石塚和雄先生からお声懸けをいただいたことに始まります。先生は本センターの初代の事務局長としてご活躍の最中にご病気で亡くなられたのは残念でなりません。30年の歴史は決して短いものではありません。その間に、田中哲初代理事長、本間利雄後援会長、古澤茂堂前理事長、佐藤藤彰前事務局長、それから私自身お会いすることが叶わなかった他の役員や相談員の方々の幾人かが鬼籍に入られたことに思いを重ねますと、感謝とお礼の気持ちでいっぱいです。

今更申し上げるまでもないことですが、いのちの電話活動は自殺予防から始まります。しかしそれは医療や心理学の専門業務ではなく、悩みを抱えた人にボランティアとして寄り添う市民活動として成長してきました。山形での本センター立ち上げが生まれたちょうどその折に、私自身、準備を進めていた皆さんの活動に加えていただき「ボランティア」を学ばせていただいたのです。

本センターの運営と活動は予め組織だったものではなく試行錯誤の連続でした。参加者個人の自由な意思が尊重されますが、個人的欲求充足や営利・荣誉とは全く無関係な活動です。そのキーワードは、「つながる」と言って良いでしょうか？

電話相談は、電話を架けてくる人と電話相談ブースに在室している相談員が、原則相互に匿名のまま繋がることで成立します。ここからは実際に電話を受けてみたいとわからないことですが、架け手は実生活では周囲と援助や関りを持ってない孤独な人たちが多いのです。話を聞いてみると、その人にとって人生上の大きな悩みを語るのですから、一度や二度ではうまく行きません。しば

しば電話を寄越すようになり、顔を見せずに話ができる「電話」と言うツールを使って、何とか「他者と声を掛け合いたい」、つまり「繋がろう」としていることが伝わります。

多くの場合、相談員一人で問題を引き受けることができないような事柄ですから、簡単に「よく解ります」などとは言えません。相談員も苦しみます。そこで、相談員はひとりで活動しているのではなく仲間と繋がりがあいながら活動をしているとの自覚が大切になります。相談員同士の日ごろの研修や支え合いが必要だと言われる



研修風景

所以です。

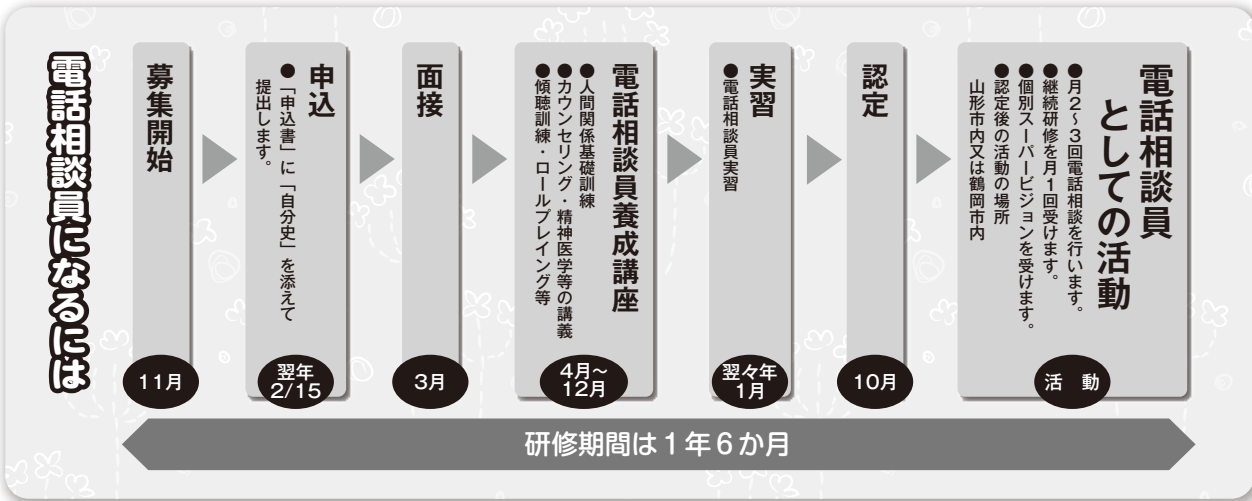
草創期以来、30年間繋ぎ続けて頂いている理事会・後援会の皆さん、そして当然のことながら相談活動の主役である相談員の皆さん相互の繋がりがあってこそ、利用者の人々との繋がりが適切に機能して行くのです。それは未来に向けて、次の世代へと「繋がる」ものと信じています。

「つながる」は、繋ぐ、継ぎ、などの漢字が浮かびます。「繋がる」は、「継続する、連繋しつつ関係を保つ」ことの他にも、「ひかれる、ほだされる」と言う心を動かす力を備えています。「繋ぐ」は「糸や綱などでつなぎとめる」と言った固定化と、「長く、絶えないようにする」と言った持続性も付け加わります。

また、「繋ぎ」には「蕎麦のつなぎ」のように快い味覚を引き出してくれる意味もありそうです。

更にまた、「とらえる、束縛する」と言った何処かしら不自由さを感じさせる意味もありそうですから、注意が必要です。

ボランティア相談員 30年間の総認定者数 315名 (2024年10月現在)



広報活動



広報担当として思うこと

広報委員長 金田 由利子
評議員

山形いのちの電話が開局して、10月で30年を迎えました。

広報誌もB5サイズからA4サイズとなり、ポスターやリーフレットにも時代と共に変化が見られるようになりました。30年の間に関わって下さった諸先輩の方針や思いを継承しつつ、広報活動に今何が必要とされているのか、山形いのちの電話として何を発信出来るかを模索しながらの日々です。

解りやすい紙面、手に取って貰えるレイアウトを目指し関係者に呼びかけ勉強会も実施致しました。言葉の選び方、見出しの文字数・大きさそして紙面の色づかい

等々。広報委員（7名）が率直に意見を出し合いながら年に2回、6月と11月に発行を続け69号になりました。今改めてこれまでの広報誌を見ていますと相談員の匿名性や相談内容の守秘義務の観点から、紙面作りには制約があるのも否めませんでした。その状況の中で特集を組み、山形いのちの電話の旬の活動を発信しています。例えばチャリティーコンサートのお知らせ、相談員の募集、グラフを活用した受信統計等です。

社会福祉法人としての山形いのちの電話は、後援会・役員・相談員の皆様のご支援が無ければ成り立ちません。そして皆様が目指す先に『いのちに寄り添う暖かさと強さ』があると感じるのです。

多様な情報伝達が溢れる現代ですが、『電話』という一番身近な媒体での活動はこれからも変わる事なく成長していくことでしょう。その活動を沢山の方々に理解して頂けるよう後方支援していくつもりです。今後も変わらぬご支援をよろしくお願い致します。

これまでの広報活動

市民クリスマス会にて



広報活動～勉強会から～



2023年11月30日 山形新聞

山形新聞社が取り組んでいる「NIB（ビジネスに新聞を）」の出席講座による勉強会への参加。広報誌づくりを行ううえで、新聞のつくりや活用などを学んだ。

まず、新聞の特徴の一つに一覧性を挙げ、見出しの作り方などを実際に体験した。ニュースの重要性に応じて大きさが異なる点や記事のポイントが分かるように工夫されていることなど、これからの広報活動に生かしていきたい。

広報誌



山形いのちの電話 2015～2024年 10年の軌跡

年	月	主な事業	公開講座・チャリティーコンサート・ 後援会総会記念講演	国内・世界の動き
2014年	7	後援会・記念講演		<ul style="list-style-type: none"> 御嶽山が噴火 ウクライナ危機 「イスラム国」が勢力拡大、有志連合空爆 韓国旅客船事故 ノーベル平和賞にマララさん
	10	開局20周年記念式典・祝賀会	佐藤藤彰 ボランティア相談員の 実情について	
2015年	4	男性相談「男性はっとライン・チェリア」事業協力		<ul style="list-style-type: none"> 安全保障関連法が成立 川内原発が再稼働 辺野古移設、国が着工 外国人観光客激増、爆買いも 中東難民、欧州に殺到 ギリシャ金融危機 米・キューバ国交回復
	4	第16期電話相談員 認定式		
	7	後援会総会・記念講演	渋谷光夫 イザベラ・バードの山形路	
	8	地域公開講座(最上地区)新庄市		
	10	第18期電話相談員 開講式		
2016年	12	第13回チャリティーコンサート	高橋まり子・高橋寛・増川大輔・須藤恵美子	<ul style="list-style-type: none"> 熊本地震、死者150人超 米大統領、歴史的な広島訪問 障害者施設で19人殺害 日銀、マイナス金利を初導入 リオ五輪・バラ、過去最多メダル シリア内戦泥沼化で大量難民 地球温暖化対策のパリ協定発効
	4	第17期電話相談員 認定式		
	7	地域公開講座(西村山地区)寒河江市		
	7	後援会総会・記念講演	村上龍男 夕日を釣った男	
2017年	11	第19期電話相談員 開講式		<ul style="list-style-type: none"> 森友・加計・日報、政権揺るがす 桐生、ついに9秒台 電通に有罪、働き方改革へ機運 北朝鮮、核・ミサイル開発加速 トランプ米政権発足 IS、拠点陥落で事実上崩壊
	12	第14回チャリティーコンサート	高橋まり子・高橋寛・増川大輔・須藤恵美子	
	1	山形新聞3P賞(平和賞)授賞式		
	4	社会福祉法改正		
	4	第18期電話相談員 認定式		
	7	後援会総会・記念講演	和田多聞 山形の酒づくり	
	10	地域公開講座(庄内地区)三川町		
10	第20期電話相談員 開講式			
2018年	11	LL対策委員会立ち上げ		<ul style="list-style-type: none"> 日産ゴーン会長を逮捕 財務省が森友文書改ざん、20人処分 平昌五輪・バラで最多メダル 米中貿易摩擦が激化 米国抜きTPP11が発効
	12	第15回チャリティーコンサート	高橋まり子・高橋寛・増川大輔・須藤恵美子	
	3	「福島寄り添いフリーダイヤル」参加		
	4	第19期電話相談員 認定式		
	7	後援会総会・記念講演	井上太 呑笑百歳で人生楽しく	
2019年	9	福島センター交流学煮会		<ul style="list-style-type: none"> 令和へ代替わり 消費税10%に、軽減税率導入 京アニ放火殺人36人死亡 首里城火災、正殿など焼失 イチロー引退 ノートルダム大聖堂炎上
	10	第21期電話相談員 開講式		
	11	地域公開講座(置賜地区)長井市		
	1	第16回チャリティーコンサート	村井秀清・Merged Images、 BIG SWING FACE	
2020年	4	第20期電話相談員 認定式		<ul style="list-style-type: none"> 令和へ代替わり 消費税10%に、軽減税率導入 京アニ放火殺人36人死亡 首里城火災、正殿など焼失 イチロー引退 新型コロナ猛威、初の緊急事態宣言 東京五輪・バラ、1年延期 安倍首相が退陣、後任に菅氏 「鬼滅の刃」大ヒット 新型コロナでパンデミック宣言 英国がEU離脱 核兵器禁止条約発効へ イスラエルとアラブ諸国が国交正常化 民間初の有人宇宙船、ISSに
	7	後援会総会・記念講演	長瀬正美 時空を旅する最上紅花	
	7	コロナ禍対応の研修・会議		
	10	第23期電話相談員 開講式		
2021年	10	第22期電話相談員 開講式		<ul style="list-style-type: none"> 東京五輪・バラ、1年延期で開催 コロナ長期化、進むワクチン接種 菅首相1年で退陣、後継は岸田氏 新型コロナ、わかっていないこと、 気をつけること ロシアがウクライナ侵攻 エリザベス英女王死去
	11	公開講座	大野裕 「こころを元気にする 4つのステップ」(オンライン)	
	4	相談活動休止(1か月間)		
	5	第22期電話相談員 認定式		
2022年	7	後援会総会・記念講演	森兼啓太 新型コロナ わかっていること、 気をつけること	<ul style="list-style-type: none"> 安倍元首相撃たれ死亡 旧統一教会との関係、政界揺るがす 円安、資源高で値上げラッシュ コロナ猛威続く、感染2000万人超 知床で26人乗り観光船沈没 ロシアがウクライナ侵攻 エリザベス英女王死去
	10	第24期電話相談員 開講式		
	1	第4期ボランティアリーダー養成講座 開講式		
	3	移転のための施設検討委員会発足		
	6	第23期電話相談員 認定式		
2023年	7	後援会総会・記念講演	黒田三佳 持続可能な幸せは一人の人からは じまる ～山形の美しい自然 と人たち～ (オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> 政治献金疑惑、岸田政権を直撃 新型コロナ「5類」移行 原発処理水放出、中国は反発 性加害でジャーナリスト「解体」 将棋・藤井が初の八冠制覇 イスラエル・ハマス軍事衝突 生成AIに脚光、規制も課題に
	10	第25期電話相談員 開講式		
	3	第18回チャリティーコンサート	村井秀清・Merged Images、 マリンバピエチエーレ	
	4	第24期電話相談員 認定式		
	5	電話設備整備		
	7	後援会総会・記念講演	本間弘 建築家・本間利雄を語る	
2024年	7	開局30周年記念実行委員会発足		<ul style="list-style-type: none"> 石川能登半島地震 羽田日航機事故 岸田首相退陣、後継は石破氏 パリ五輪・バラ 大谷翔平50-50 大河ドラマ「光る君へ」 朝ドラ「虎に翼」 米大統領選でトランプ氏勝利
	9	開局以来の相談件数累計20万件に達する		
	10	第26期電話相談員 開講式		
	11	FDシステム変更		
	4	第25期電話相談員 認定式		
5	毎日FD受信開始			
7	後援会総会・記念講演	安達三千代 シリアの子どもと若者は、この11 年を、どのように生きてきたのか		
10	開局30周年記念式典	渡辺えり 「笑顔のために」		

アンケート調査から（相談員の声）

アンケートの目的

これまでの30年間、山形いのちの電話や相談員が「大切にしてきたこと」を確認し、これからの考えるために、アンケート調査を行いました。（一部抜粋）

相談員からの声

いろいろな人々と関わりをもって暮らしていきたいと思っています。

社会との接点

相談員の高齢化もあり夜間の当番ができていくなくなったと感じている

毎月のグループ研修が、学びや気づきの場であり心のケアにもなっている。

年齢に関係なく、知らないことを知り、学び続けることが大切だと思っています。

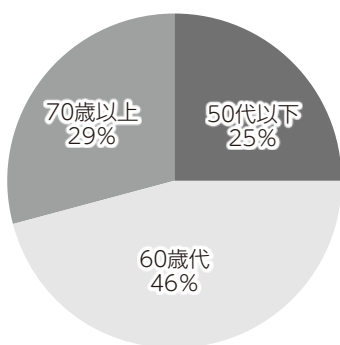
年齢を重ねても誰かの役に立つことができるのなら、自分のため、社会参加としてずっと活動を継続したい。

電話を受けることで、気づきや教えていただくことも多い。視野が広がり自分の為にもなっている。

活動を通して「出会い」「つながり」が最大の魅力と感じている。他人を助けるというよりも自分が助けていただいているような感じです。

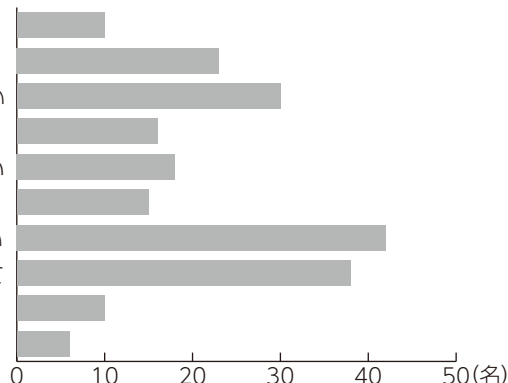
いつも一緒に活動している皆さんや事務局の方々に支えてもらい、本当に有難く思っています。相談の形は少しずつ変わっていくかもしれませんが、基本的な活動理念は変わらないものと思っています。これからもできる限り活動を続けていきたいです。

相談員年代グラフ

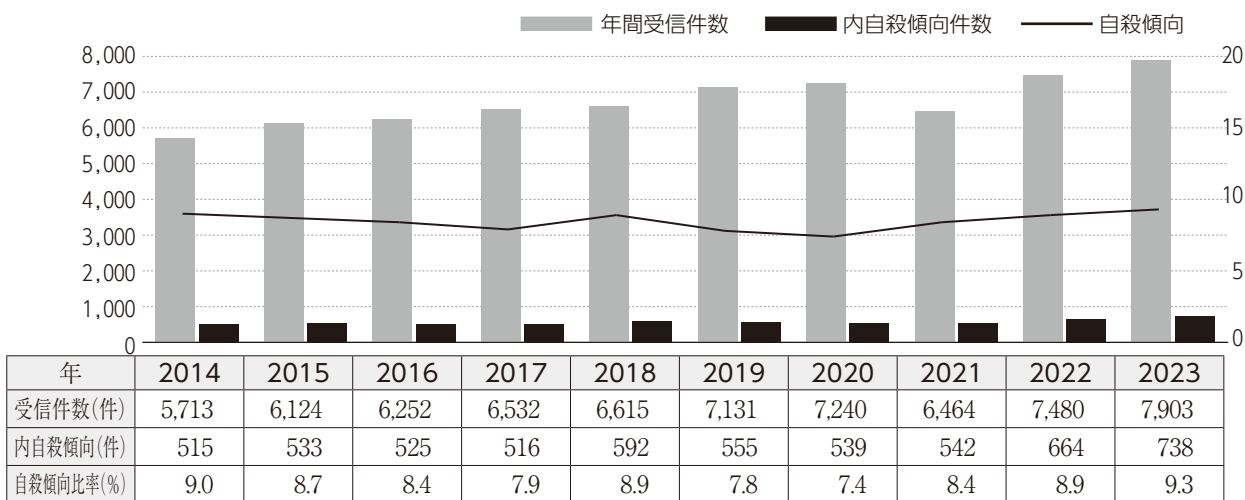


参加した動機

- ①充実感や満足感を得たい
- ②個人の人生の出来事から
- ③聴き方や心理について学びたい
- ④社会との接点を持ちたい
- ⑤これまでの経験を活かしたい
- ⑥仕事や生活に役立てたい
- ⑦ボランティア活動で役に立ちたい
- ⑧いのちの電話の活動に興味を抱いて
- ⑨知人に誘われた
- ⑩その他



受信統計（2014～2023年）



後援会名簿 (法人・募金箱) (2014~2024年)

- 法人会員**
- (株)卯月製麺
 - 小笠原商事(株)
 - (有)キャロットランド
 - 國井建設(株)
 - 弘栄設備工業(株)
 - (有)壽屋
 - 鹿間(株)
 - (学)平和学園 新庄幼稚園
 - 高島電機(株)
 - (株)高橋工務店
 - 千歳不動産(株)
 - (医)悌仁会 板垣医院
 - トーエイ工業(株)
 - 東栄コンクリート工業(株)
 - (学)富澤学園
 - ネットヨタ山形(株)
 - (学)平和学園 ひかり幼稚園
 - (株)本間利雄設計事務所
 - (株)マルナカ中村商店
 - (株)三浦板金製作所
 - (株)山形銀行
 - 山形県石油商業組合
 - 山形パナソニック(株)
 - 和田酒造(資)
 - N T T 東日本(株)山形支店
 - 遠藤商事(株)
 - 黒澤建設工業(株)
 - 三宝寺
 - 柴田原料(株)
 - (株)千歳建設
 - 内外緑化(株)
 - (株)西村工場
 - 山形いすゞ自動車(株)
 - (株)山形組
 - (株)山形テレビ
 - (株)山形ビルサービス
 - 山形ロータリークラブ
 - (株)ヤマコン
 - ヤマザワグループ
 - (有)山六製材
 - (株)ユアテック 山形支社
 - (株)天野左官
 - (株)建築テクノ
 - (社)山形県歯科医師会
 - 日本基督教団 山形地区
 - 日本基督教団山形本町教会
 - 吉野断熱工業(株)
 - 日本基督教団 山形六日町教会
 - 山形三菱電機機器販売(株)
 - 中山ロータリークラブ
 - 角田商事(株)
 - 山形警備保障(株)
 - 山形酸素(株)
 - (株)菅原工務所
 - (学)加藤学園 山形デザイン専門学校

- 宮内認定こども園
- (有)くまがい
- 国際ソロプチミスト米沢
- 日本基督教団 酒田教会 婦人会
- (株)わだ電気設備事務所
- 本行寺
- N T T 東日本 山形グループ
- 峯田典明法律事務所
- (株)きらやか銀行
- 山新建築(株)
- 山形南部教会婦人会
- (有)カワダ薬局・八百坊
- (社)福)山形市社会福祉協議会
- (有)新庄石油
- 善龍寺
- (医)徳洲会山形徳洲会病院
- 山形経済同友会
- 千歳グループ親交会
- 山形放送(株)
- 山形信用金庫
- 日本バプテスト連盟 山形キリスト教会
- (医)池田内科医院
- 高橋畜産食肉(株)
- 山形友の会
- (社)山形県労働者福祉協議会
- いのちの電話 後援会
- 山形空港ビル(株)
- (株)山形新聞社
- (株)ぶどうの木
- (株)バガスバガス
- 東北電化工業(株)
- (株)メコム
- トヨタカローラ山形(株)
- 山形市キリスト教連合
- 山形事務販(株)
- 遠藤設備建設(株)
- (株)新庄印刷
- (株)新庄ビル
- 山形共立(株)
- きらやかリース(株)
- きらやかカード(株)
- (株)セーブエナジー
- 鈴木歯科クリニック(山形市)
- 新庄信用金庫
- (有)最新清掃興業
- たいようパン(株)
- (株)丸吉 奥山組
- 蔵王米菓(株)
- (株)蔵王サブライズ
- (株)東北シーアイシー研究所
- (株)丸太中村
- (株)ムラヤマ
- (株)ヤガイ
- ミクロン精密(株)
- (一財)でん六財団
- 山形トヨタ自動車(株)

- (株)佐藤工務
- トップ建材(株)
- (株)銘菓の錦屋
- 進和ラベル印刷(株)
- 山新販売(株)
- 山形トヨペット(株)
- (株)ジョイン
- (株)山形環境エンジニアリング
- (株)POWER E NEXT
- (株)エコー
- (有)水工リサーチ
- 天理教 天童分教会
- 仮設機材工業(株)
- 日東ベスト(株)
- 愛和建设(株)
- 升川建設(株)
- (株)渡会電気土木
- (株)鈴木製作所
- (株)ウンノハウス
- 小野建設(株)
- (株)王祇建設
- 羽山総合建設(株)
- 青山建設(株)
- (株)ハッピージャパン
- 米沢信用金庫
- (株)佐藤商会
- (株)カンベ
- (株)荒正
- 妙玄寺
- MD R T 日本会
- (株)滝の湯ホテル
- 三條物産(株)
- (株)塚田会計事務所
- (有)サキヤピアノ
- (株)エービーエム
- コマツ山形(株)
- (株)新陽製作所
- (株)とみひろ
- (株)ウエノ
- 山形ワシントンホテル(株)
- 丸七建設(株)
- 山形ヤクルト販売(株)
- (株)カルイ
- (株)クリーンシステム
- 渋谷建設(株)
- 本多アルミ(株)
- (有)板垣商店
- (株)大商金山牧場
- 日新製菓(株)
- 東北医療機器(株)
- (有)山形映電
- (株)菊池技建
- (株)スカワ
- 古澤・内藤法律事務所
- ハイメカ(株)
- (株)ワイム

- 山形県社会福祉協議会
- (株)カキザキ 山形国際ホテル
- アリオンテック(株)
- 国際ソロプチミスト南陽
- (株)山形コミュニティ新聞社
- 東根中央ロータリークラブ
- 山形県子育て若者応援部子ども家庭課職員有志一同
- 明治安田生命保険相互会社山形支社
- (株)荘内銀行
- 中華料理 竹八
- (株)ニューメディア
- いまの社会保険労務士事務所
- (株)かわでん
- オーデオ ガーランド
- ニューグランドホテル
- 国際ロータリー第2800地区
- 山形南部教会
- (株)ミウラ・ルーファサービス
- 山形県製麺共同組合
- 日蓮宗 山形県社会教化事業協会
- 龍昌寺
- 1期生同窓会

募金箱

- 日本海総合病院
- (医)悌仁会 板垣医院
- (株)シベール
- くまがい
- 岡部歯科診療所(鶴岡市)
- 清川屋マリカ本店
- 玄柳館ホテル
- 郷野目ストア
- 森金物店
- (有)カワダ薬局・八百坊
- 山形県立中央病院
- 国立病院機構 山形病院
- 山形県立こころの医療センター
- (医)徳州会庄内余目病院
- みやはらクリニック(鶴岡市)
- 東北中央病院
- 鶴岡市立荘内病院
- 土田内科医院(鶴岡市)
- 篠田総合病院
- (株)もがみ物産協会
- (財)三友堂病院
- 小国町立病院
- 鈴木歯科クリニック(山形市)
- 日本海酒田リハビリテーション病院
- (株)おーばん
- 島田クリニック
- 特定非営利活動法人 With優
- みゆき会病院
- (株)カキザキ 山形国際ホテル

役員名簿 (2024年11月25日現在)

- 理事**
- 長谷川憲治 (理事長)
 - 永澤 孝 (常務理事・事務局長)
 - 末廣 晃二
 - 内藤 和暁
 - 井上 周
 - 菅原 和夫
 - 伊藤 吉明
 - 市村 克朗
 - 大御 均
 - 矢吹 海慶
 - 本間 弘
 - 小野 葉子
 - 小野みどり
 - 大沼 俊彦
 - 島貫 新平
 - 峯田 典明
 - 境澤 栄美子
 - 東谷 慶昭
 - 後藤 茂
 - 結城 章夫
- 監事**
- 伊藤 吉明
 - 市村 克朗
 - 大御 均
- 評議員**
- 三浦孝太郎
 - 千歳 毅
 - 大浦 正人
 - 岡 撰也
 - 鈴木 隆一
 - 植木 憲司
 - 石川貴代子
 - 相馬 健一

- 顧問**
- 井上 弓子 (後援会会長)
 - 沼野 慈
 - 久松 玄徳
 - 小野 宏哉
 - 片桐 弥生
 - 伊藤 和子
 - 竹川 敏雄
 - 波多野保夫
 - 小澤 一仁
 - 酒井 彰
 - 遠藤 靖彦
 - 金田由利子

ポスター・リーフレット紹介



1994年開局告知ポスター



1998年~



2003年~



2014年~



安心カード



募集チラシ



2024年~



リーフレット

記念式典から



山形いのちの電話は、お陰様で開局30周年を迎えることができました。
皆さまの温かいご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。
皆様からの寄付金は、活動費として使わせていただいております。
これからも、ご支援の程よろしくお願いたします。



年末特別賛助金のお願い あなたのあたたかいご支援を

山形いのちの電話はあなたのご支援により活動しています

[振込先] 社会福祉法人山形いのちの電話

- ◎銀行振込 山形銀行 城南支店-(普)508322
- きらやか銀行 山形城北支店-(普)0151924
- 荘内銀行 山形営業部-(普)1114780
- ゆうちょ銀行 店番 858-(普)0004967
- ◎郵便振替口座 02460-2-21250



ホームページは
こちらから



編集後記

広報70号をお届け致します。手に取って頂きありがとうございます。
今号は、山形いのちの電話開局30周年記念特集号です。
お忙しい中でご寄稿頂いた皆様に感謝申し上げます。10年、20年、
30年と大きな節目を迎えられる喜びは、この活動を支えて下さる全ての
皆様のご協力の賜物と改めて胸に刻んだ編集になりました。(ゆ)

社会福祉法人 山形いのちの電話

事務局 〒990-8691 山形中央郵便局私書箱第99号
電話/023-645-4377(事務用) FAX/023-645-7795
発行人/長谷川憲治 編集/広報委員会



この広報誌は、赤い羽根
共同基金の協力で発行
しています。